

島の高校魅力化のいま

(二財) 地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事 岩本悠

はじまりは、島根県の離島の高校から

私たち一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームは、地域留学と高校魅力化を通して、意志ある若者の育成と持続可能な地域づくりに貢献することを目指しています。

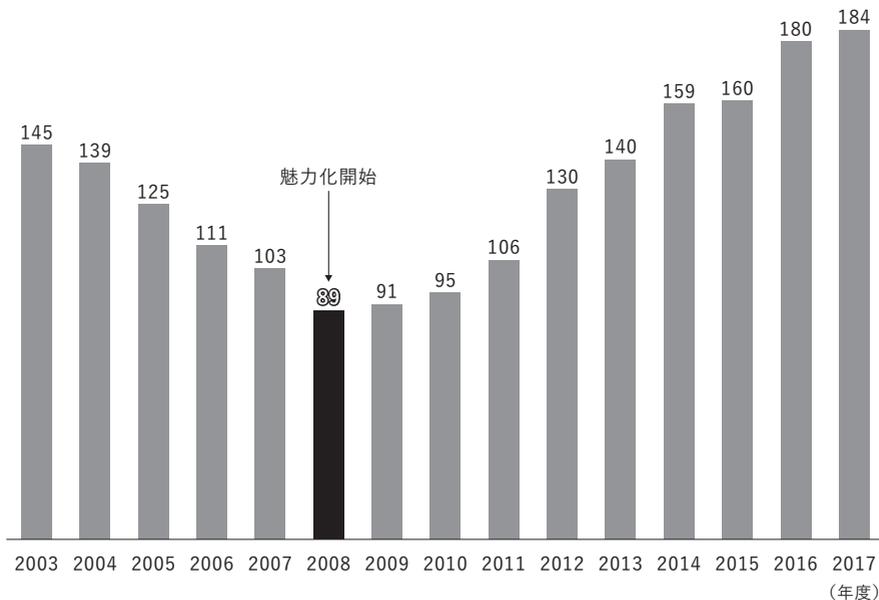
この取り組みは、島根県の離島・海士町にある島根県立隠岐島前高校きとうぜんから始まりました。同校は西ノ島町、知夫村、海士町の三町村(三つの有人離島)からなる島前地域唯一の高校で、二〇〇七年当時、生徒数の減少により統廃合の危機を迎えていました。島(地域)に高校がなくなると、子どもたちは島外の高校に進学せざるを得ず、家族ぐるみで島外に移住するケースも想定されます。学校の存続が地域の存続に直結しており、いま手を打たないと手遅れになってしまう、という

危機感が地域の中に生まれました。

そこで、地域と高校とが一緒になって、島の未来をつくる子どもたちに「どんな力を身につけてもらいたいのか」「どう育ってほしいか」「その先にどんな地域や未来をつくりたいか」「そのためにどんな高校や地域の教育環境をつくっていくか」を話し合い、高校魅力化に向けたビジョンを策定していきました。そして、その実現のために、『島まるごと学校』をコンセプトに掲げ、地域の資源を活かし、地域ぐるみで人を育てる取り組みを始動させました。

特に重視したのが、課題発見・解決型の学びです。人口減少や空き家問題など、離島はいわば日本の「課題先進地域」です。地域の課題を教材に、地域の人たちと一緒に「解決策を探る学びを構築していきました。」

隠岐島前高校の生徒数推移(人)



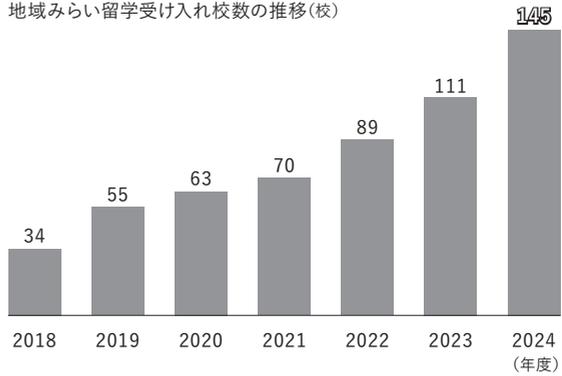
一方、当時は多様な人とのかわりや刺激を求めて島外の高校に進学する島の子どもも多く、いつもの仲間だけで島の課題解決に取り組むことには魅力を感じないだろう、という思いもありました。それならば、島にいながら多様な人と出会い、かわり合い、刺激を受ける、そんな環境をつくろうと二〇一〇年にスタートさせたのが、島外(全国)から生徒を募集する「島留学」制度です。

その結果、二〇〇八年には八九名にまで落ち込んだ隠岐島前高校の生徒数は、約一〇年間で倍増。島留学生だけでなく島前地域の中学生たちの同校への進学率も高まり、教育移住や卒業生のUターン率の向上にもつながっていきました。これらの効果により二〇〇〇年時点では二〇〇七名と推定されていた一五年の人口が、実際は二三五四名(二〇一五年国勢調査)と、推定値を大きく上回りました。

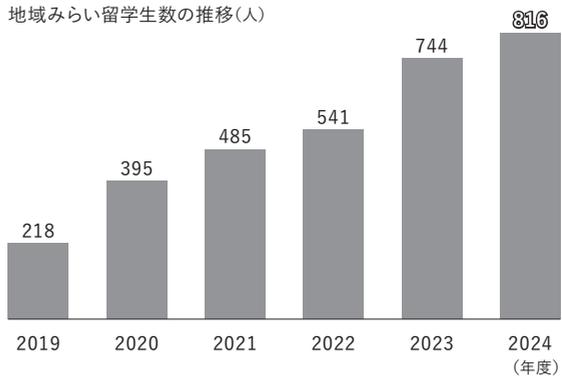
「しまね留学」、そして「地域みらい留学」へ

地域と一体になった隠岐島前高校の魅力化の取り組みが加速するなか、都道府県や市町村の教育委員会、学校、議員、地域づくりの関係者など全国から多くの方々が視察に訪れるようになりました。皆さん感心される一方で、「よい人材がいるからできる。うちにはそういう人がいないから難しい」など、

地域みらい留学受け入れ校数の推移(校)



地域みらい留学生数の推移(人)



援制度(※1)において最優秀賞を受賞しました。その資金をもとに、翌一七年に地域・教育魅力化プラットフォームを設立。全国の離島・中山間地域の自治体や高校に呼びかけ、高校魅力化に取り組みつつ全国から生徒を募集する「地域みらい留学」を始めました。

現在までに、三五道県・一四五校が参画し、各地から越境して来る地域みらい留学生の数は、年間八〇〇人を超えるまでに拡大しています。

学校や地域の活気の創出

地域みらい留学を実施することで、地域・生徒それぞれにとってプラスの効果を生みだせると考えています。実際に、全国各地からの越境入学による社

会経済効果(地域の創り手、手を育てる高校の持続可能性の拡大、若い世代が流入し活動することによる活気の創出など)、生徒の保護者や親類・知人などの来島者増や、ふるさと納税などで応援したいという交流・関係人口の増加、卒業した生徒が地域に定着・還流することによる地域活性化など、さまざまな効果を生み出しています。

地域みらい留学実施校が立地している地域とそうでない地

自分たちの地域でできない理由を挙げて帰られる方がほとんどでした。「一つのモデルができるだけでは日本の地域は変わらない。他の地域でもできる知見や仕組みをつくっていく必要がある」と痛感し、島根県の教育委員会や地域振興部局と連携して、二〇二二年より同県の離島・中山間地域での「高校魅力化」と「しまね留学」の取り組みを進めました。

一六年、筆者は、日本財団の「ソーシャルイノベーター支

域とを比較した調査では、前者では一五〜一七歳の人口減少率が緩やかであることが示され、地域の人口動態に影響を及ぼしていることが確認できました（三菱UFJリサーチ&コンサルティング「高校と地域の協働が、生徒の資質能力の向上と人口減少の緩和に効果」）。

また、当然ながら生徒自身にとってもプラスの効果があります。地域外から来る生徒（地域みらい留學生）にとっては、自分が生まれ育った環境とは異なる場に身を置き、新しい考え方や多様な価値観に触れたり、それまでとは違う生活様式を経験する中で、大きな気づきや成長が得られます。他方、その地域で育った生徒にとっても、外から来た生徒が持つ新しい視点で地域の価値を再発見したり、そういった生徒たちに刺激を受けて主体性や協働性が向上します。

島が「第二の故郷」に

以下に、離島の高校を卒業した生徒のその後の姿をいくつか紹介したいと思います。離島では島内に進学先がほぼないため、高校を卒業した後は島外へ出るケースが大半です。しかし、島内出身者はもちろん島外からの留學生にとっても、島は「第二の故郷」として、就職の際に島に戻ってきたり、帰らずとも島や島の人との関係性が継続していたりと、強固な

絆が育まれています。

①教員として母校に赴任

島根県隠岐の島町の島根県立隠岐水産高校で学んだ東京都と神奈川県出身の二名の留學生は、同校を卒業後、大学に進学して教員免許を取得。その後、教員として母校・隠岐水産高校に戻ってきました。

地元紙の取材に、「高校時代にご飯を食べさせてもらった地元の人に恩返しをしたい」と答える姿からも、島や島の人々への想いが感じられます。

②高校魅力化に魅了された島留學生

神奈川県出身で島根県立隠岐島前高校に地域みらい留學生した女性は、卒業後、地域留學に関わるコーディネーターとして鹿児島県の喜界島に着任。同島の県立喜界高校が推進する「サング留學」の制度設計や広報に携わりました。彼女の着任翌年より全国から同校への志願者が大幅に増えています。

実際に地域みらい留學を体験し、隠岐島前高校で学校と地域が一緒になって魅力化に取り組む姿を見て、自分もコーディネーターとして従事したいと考えるようになったそうです。

③「大人の島留學」の展開

このほか海士町を含む島前地域では、「大人の島留學」として全国から若者を募り、島で働きながら暮らす、というプログラムを二〇二一年度より展開（三町村による取り組みは二年



隠岐島前高校では、これまで北海道から鹿児島県まで200人以上の留学生を受け入れてきた。

度開始)しています(※2)。毎年、多くの若者が来島し、これまでの参加者は四〇〇名ほどに上ります。このプログラムを推進しているのも、隠岐島前高校の卒業生です。自分たちが高校時代に経験した島留学の価値を、対象を若者に拡大して伝えていきたいと、地域と協働で事業を進めています。

島のポテンシャルを活かした「人づくり」を

ここ数年で地域みらい留学の認知度は、高まってきました。より多くの中学生や保護者の方々に知ってもらい、進学先の選択肢の一つとなるよう、さらなる周知に努めているところです。

今後は、地域みらい留学の越境のバリエーションを増やしたいと考えています。具体的には、中学生がお試し感覚で参加できる短期留学や、離島・中山間地域で生まれ育った生徒が他の地域に留学できる制度、日本語を学んでいる海外からの生徒の受け入れなどを進める計画です。

昨今は、学びにおけるオンラインの活用が進んでいます。離島の学校にとってこれは大きなチャンスです。教員が足りずに開講できていなかった科目、プログラミングや英会話といった指導に専門スキルが求められる課外活動なども、オンラインでつなぐことで受講が可能となります。オンラインで

選択肢を増やしなから、島だからこそできることに對してさらに時間とエネルギーを割けるようになれば、都会にはない魅力をより打ち出すことができると思います。

島は、いわば「社会の縮図」です。ぎゅっと詰まっているからこそ、都会では自分ごととして捉えにくい社会課題であっても、島では身近に感じられるようになります。教育や学びといった「人づくり」の観点で見たとき、島は非常に高いポテンシャルを有しており、離島での挑戦が島国・日本の未来をつくることにつながると考えています。

隠岐島前高校で島留学を提唱した当初、「こんな島に（都会の）高校生が来るわけがない」「島の子さえ行きたがらない高校に外から来るなんてありえない」「来るとしたら、何か問題を抱えた子に違いない」……。そんな声が島の中から聞こえてきました。「魅力なんてない」「まずは魅力をつくらなさい」というのは、今ある魅力に気づいていないだけの話です。既にあるもの・ことをきちんと伝えることで、そこに魅力を感じる人は必ずいます。島の魅力を再発見し、地域の学校と一緒に盛り上げていきたい。私たちは、そんな思いをお持ちの方々と一緒に、島を、地域を、そして日本の未来を元気にしていく、かけがえのない一助になりたいと思っています。

地域みらい留学や高校魅力化に取り組みにあたってのハードルの高さや課題が指摘されることもあります。それらを

さまざまな工夫や知恵で乗り越えてきた事例や知見が既にもくあります。高校魅力化や地域留学に興味ある方や、進めるにあたって課題や困難を感じられている方は、お気軽に本財団へご相談いただければ幸いです。

（編集協力・笹原風花）

【】相談・お問い合わせ

（一財）地域・教育魅力化プラットフォーム 08521618866

※1…社会課題の解決に向け、セクターの垣根を越えて協働し、互いのリソースを持ち寄り、新しい発想とネットワークで社会変革を引き起こすような「ソーシャルイノベーション」の創出に取り組む人材・チームを支援する日本財団の制度。

※2…本誌二七九号参照。



※2



岩本 悠（いわもと ゆう）

一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事。1979年東京生まれ。2007年より隠岐島前高校魅力化プロジェクトを推進。15年から島根県教育庁と県地域振興部（19年から政策企画局）の特命官として、教育魅力化による人づくり・地域創生に従事。17年より（一財）地域・教育魅力化プラットフォームを立ち上げ、全国の高校魅力化などの支援を展開。